

埼玉アートシアター通信

2016 3月-4月

SAITAMA
ARTS THEATER
PRESS
VOL.62

1万人のゴールド・シアター2016

アクリム・カーン&イスラエル・ガルバン
『TOROBAKA-トロバカ』

近藤良平 × 伊坂幸太郎

2016年音楽ラインナップ

舘野 泉



彩の国シェイクスピア・シリーズ第32弾

『尺には尺を』

MEASURE FOR MEASURE

CONTENTS

- 03 蜷川幸雄氏療養についてのお知らせ
- 04 〈PLAY〉 彩の国シェイクスピア・シリーズ第32弾『尺には尺を』
Interview 藤木直人
- 06 〈PLAY〉 1万人のゴールド・シアター2016
加藤種男(さいたまトリエンナーレ総合アドバイザー) × ノゾエ征爾(脚本家)
- 08 〈PLAY〉 平成28年度公文協東コース 松竹大歌舞伎
- 09 〈RAKUGO〉 平成27年度 彩の国落語大賞は、春風亭一之輔に決定!
- 10 〈DANCE〉 アクラム・カーン&イスラエル・ガルバン『TOROBAKA—トロバカ』
Interview イスラエル・ガルバン
- 12 〈DANCE〉 記念すべき年のスペシャル対談!
コンドルズ埼玉公演2016新作『LOVE ME TenDER』
近藤良平 × 伊坂幸太郎
- 14 〈MUSIC〉 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
2016年度 音楽公演 聴きどころはココだ!
- 16 〈MUSIC〉 「次代へ伝えたい名曲」第7回
舘野 泉 手が伝える思い——舘野 泉の新しい響き
- 18 REVIEW
- 20 イベントカレンダー／チケットインフォメーション／彩の国シネマスタジオ
- 23 INFORMATION
- 24 〈COLUMN〉岩松 了 連載「どっちつかずの天使」

[表紙] 彩の国シェイクスピア・シリーズ第32弾『尺には尺を』
編集◎川添史子、榊原律子 デザイン◎柳沼博雅
©公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 Published on 15.March 2016 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation
※掲載情報は、2016年2月25日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。



2015年4月「リチャード二世」千機楽より。Photo◎宮川舞子

蜷川幸雄氏療養についてのお知らせ

彩の国さいたま芸術劇場芸術監督 蜷川幸雄氏は、昨年12月中旬に軽度の肺炎と診断され入院いたしました。「『蜷の綿-Nina's Cotton-』蜷川幸雄演出版」の稽古に向けて療養を続けておりましたが、体力の回復が十分でないためやむを得ず、本作品および同時上演を予定していた「『蜷の綿-Nina's Cotton-』藤田貴大演出版」の両作品の公演を延期いたしました。

公演を楽しみにされていたお客様、並びに関係者の皆様にはご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

代替公演として2月、彩の国さいたま芸術劇場では2つの演劇作品を同時に上演しました。さいたまネクスト・シアター&さいたまゴールド・シアターは、「国際シェイクスピア・フェスティバル」の招聘を受け、ルーマニアのクライオーヴァでの上演を4月に控える『リチャード二世』を上演。一方、藤田貴大氏率いるマームとジプシーは「夜」と「不在」をモチーフに描いた藤田氏の3つの旧作「夜、さよなら」「夜が明けないまま、朝」「Kと真夜中のほとり」を再構築し上演。いずれも好評を博しました。

現在、蜷川氏は快方に向かっており、『リチャード二世』の公演パンフレットには、「現在病氣療養中です。もうすぐ復帰します！ 待っていてください」とメッセージを寄せ、5月に開幕する彩の国シェイクスピア・シリーズ第32弾『尺には尺を』の演出にて復帰を目指しております。

今後も質の高い演劇作品を皆様にお届けしてまいりますので、何卒ご理解いただき、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団



シェイクスピアを高齢者の集団と若者の集団の混成でやるなんて、ヨーロッパでは考えられないと思います。

演劇的ショックと現代劇としての問題劇になれば嬉しいと思っています。

現在病氣治療中です。もうすぐ復帰します！

待っていてください。

蜷川幸雄

2016年2月「リチャード二世」公演パンフレット。蜷川氏がメッセージを寄せた。

—まずは、『尺には尺を』の戯曲を読まれたの印象を伺えますか？

第一印象は、「アンジェロ、なかなかヒドイ男だな、この男を演じるのか……」と思いました(笑)。あとシェイクスピアの戯曲、特にこの作品は「どういうこと？こんなに早く人物たちの気持ちが切り替わっちゃっていいの？」という展開が多くて、台本を読んだだけでは、どう演じるのか悩みますね。今、TVでこういうドラマをやったら、「展開についていけないんだけど、どういうこと？」って視聴者からいっぱい電話が入るかもしれない(笑)。そして400年前の作家の作品というのも、なかなかハードルが高いです。僕は同時代を生きる作家のドラマに出ることが圧倒的に多いので、台本を読んでいて意味が分からない事柄ってほばないですよ。それに比べ

彩の国シェイクスピア・シリーズ第32弾

『尺には尺を』

Interview

藤木直人

Naohito Fujiki

藤木直人
Naohito Fujiki

5月に上演される彩の国シェイクスピア・シリーズ最新作は、喜劇『尺には尺を』。世間のイメージは真面目で実直な男、しかし一皮むけばとんでもないことを……という二面性あるアンジェロを演じるのが、多彩な活躍を見せる藤木直人だ。初めてシェイクスピア作品に挑む意気込みを聞く。また、蛭川との初顔合わせとなった『海辺のカフカ』を振り返ってもらった。

取材・文 ● 川添史子

千葉県出身。早稲田大学理工学部在学中の1995年、映画『花より男子』花沢類役に抜擢され、デビュー。NHK朝の連続ドラマ小説『あすか』、『ナースのお仕事』シリーズなどで注目を集め、その後も数多くの作品に出演。近年ではドラマ『ホテルノヒカリ』『ラスト♡シンデレラ』『心がポキッとね』、映画『20世紀少年(第2、3章)』など話題作に多数出演。『おしゃれイズム』『TOYOTA Athlete Beat』ではレギュラーパーソナリティーを務める。舞台は、『冬の絵空』(2008年)、『海辺のカフカ』(2014年)など。音楽活動も精力的に行い、全国ツアーでのライブ本数は200本以上を数える。

てシェイクスピアの作品は、地名や時代背景……公爵なんて会ったこともないですし(笑)、僕がこれまで演じてきたものとは相当な距離があります。「藤木が無理してやってる」とならないようにしないとイケませんよね。

—謹厳実直な人物として公爵の代理を勤める男だと思っていたら、兄の命乞いをするイザベラに「お前の操と引き換えなら……」と言い出すアンジェロ。ここまで二面性がある役は、なかなかないですよ。現実世界では、たくさんいるかもしれませんけれど。

そうですね。最初から表裏がある悪い人もいるでしょうし、もとは理想や夢を持ちつつも、段々と現実や欲望に流されていった人もいると思う。僕は自分と近いところを役の中に探すという演じ方しか出来ないんですけど、アンジェロは最初のスキのない完璧な時よりも、イザベラに恋して権力をかさにズルいことを言い始めてからのほうが人間らしいとも言える。そう思うと、そこに理解できる糸口がある気もしています。人としてみたら、ひどい人間だなと思いますけど、程度の差はあれ、100パーセント正しい人間なんていないですから。人を傷つけたり、ウソをついたり……極端だったり、言い回しが独特だったりしますが、そう思えば、全ての登場人物に共

感できるような気もします。

—シェイクスピアのセリフについてはいかがでしょうか？

アンジェロは言葉数がとても多い。そして、言葉自体も難解です。台本で、文字で読んでいる時点で難しいことを、どう音(おん)で発してお客様に分かるように伝えればいいのか、難しいですね。

—蛭川幸雄演出を受けるのは、『海辺のカフカ』(2014年再演から参加)に続いて2度目です。

蛭川さんの現場は本当に特別です。蛭川さんが長い時間をかけて築き上げられた環境なのだと思いますが、多くのスタッフの方たちが、蛭川さんの舞台のために献身的に動かれている。張りつめた空気も独特です。でも稽古の休憩中に「初めての現場で、大丈夫ですか？」って蛭川さんが聞いてくださったりして、優しい方なんだなって思いました。とはいえ、スイッチが入った時のダメだしは厳しいんですけど。

—藤木さんが演じられたのは、主人公のカフカ君を見守るトランスジェンダーの「大島さん」。とても複雑な役柄だったかと思うのですが、どう役をつくられていったのでしょうか。



家を出て、図書館へやってきたカフカ。藤木が演じたのは、さまざまな迷いを抱えるこの少年を静かに見守る司書「大島」だ。穏やかな中にも、しなやかな強さと哀しさを抱えた人間として演じた。Photo © 満田聡

とても難しい役でした。自分で自分の演技を見ることはできないので、最後まで客観的に掴めないまま演じていましたし、違う方が演じたら全く違うアプローチをしていたかもしれない。でも自分なりにいろいろ考えて精いっぱいやりました。トランスジェンダーにかんしても、いろいろな資料を見て、実際にそういった方にもお会いしたんですよ。それで思ったのは、個人個人の抱えている悩みは違うもので、そこへの折り合いの付け方も違う。ただ大島さんを演じながら「さまざまな葛藤を乗り越えた人なんだろう」とは感じていて。だからカフカ君の悩みを理解してあげられる存在なんだろうと。

—また『尺には尺を』で新たな役づくりが始まりますね。

小心者の僕にとって、舞台はとても恐い場所なんですよ……。公演数をこなせば楽になっていくかと思ってたのに、「今日はせりふが出てこないんじゃないか」みたいな、ちっぽけなところで、ますますコワくなりますし。でもまた色々な俳優さんと出会って、芝居ができるというのはとにかく楽しみです。

『尺には尺を』あらすじ

舞台はウィーン。ここを治める公爵ヴィンセンショーは全権をアンジェロに委任し、国外に出ると言う。が実は修道士に変装して国内に留まり、権力が人をどう変えるのか、観察したいと思っていたのだ。アンジェロは、街を厳しく取り締まる。その折、若い貴族クローディオが恋人ジュリエットを妊娠させてしまう。厳格なアンジェロは彼に死刑を宣告。クローディオの友人ルーチオは、クローディオの妹イザベラを訪ね、アンジェロに会って兄の死刑の取り消しを頼むよう助言する。イザベラはアンジェロに面会し慈悲を求め、何とアンジェロはイザベラに恋をしてしまい……。

発売日 一般 3.19(土) メンバース発売中

彩の国シェイクスピア・シリーズ第32弾『尺には尺を』

5.25(水)～6.11(土) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[演出] 蛭川幸雄 [作] W.シェイクスピア [翻訳] 松岡和子

[出演] 藤木直人、多部未華子

原 康義、大石継太、廣田高志、間宮啓行、妹尾正文、岡田 正、清家栄一、新川将人、手打隆盛*、松田慎也*、立石涼子、石井愼一、辻 萬長 ほか *さいたまネクストシアター

チケット(税込)

一般 S席9,500円 A席7,500円 B席5,500円 / U-25*(B席対象)2,000円

メンバーズ S席8,600円 A席6,800円 B席5,000円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

	5	25	26	27	28	29	30	31	6	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
13:30	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
18:30	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

★印は映像収録のため場内にカメラを設置いたします。

1万人の ゴールド・シアター 2016

2020年に向けた文化事業として、埼玉県と劇場が共同で取り組む異例の演劇企画がスタート。一般参加の高齢者と、彩の国さいたま芸術劇場の高齢者劇団「さいたまゴールド・シアター」との共演による、1万人規模の大群集劇「1万人のゴールド・シアター2016」が始動する。総合演出は、世界のNINAGAWAこと、蜷川幸雄（80歳）。4月から出演者の公募がはじまる同企画の意図や狙いを、発案者である加藤種男氏と、構成・脚本を担当するノゾエ征爾氏の二人に聞いた。

取材・文 ● 川添史子 Photo ● 宮川舞子

加藤 「1万人のゴールド・シアター2016」は、もともと10万人の市民参加を打ち出している「さいたまトリエンナーレ2016」で、県の劇場と何かできないか……というところからスタートしました。トリエンナーレでは、世界的な優れたアーティストが作品を発表するだけでなく、あらゆる人を表現者にするようなプロジェクトをいくつも構想しています。なので、「さいたまゴールド・シアター」を中心とした高齢者による演劇はぴったりだと思いました。私が近年考えているテーマが、アートにおける〈作り手と受け手の流動化〉でして、特定の人が作り手あるいは受け手、という状況を転換したいんです。例えば村のお祭りは、みんなで作って楽しみますよ

ね。それが理想。芸術にたいする革命的な試みなんです。

ノゾエ 1万人規模で人を集めようということ自体、すでに〈一革命〉起きてますからね（笑）。今は群集劇という枠組みしか決まっていなくて、具体的などころはまだ想像もできていないんです。でもその想像のできないことに挑戦するのが楽しみでもあります。

加藤 本来なら私は、「1万人集めて演劇をつくって」と無茶なことだけを言っておいて、あとは劇作家と演出家にお任せしておけばいいのですが（笑）。それでも「セリフに老人的リアリティーがほしい」などと、老人の一人としていくつか注文をつけさせてもらっています。現在の仮テーマは

〈老人の主張〉なんです。老人って世間に向かって言いたいことがいっぱいあるんです。でも、その場所がないから、仕方なく悶々と胸の中に堆積させている。これを機会に全部を噴出してもらえば、国家的エネルギーとしても貴重なものが生まれるかもしれない。

ノゾエ 人間って永遠に聞いてもらいたい生き物なんですよ。小さい時も「大人に話を聞いてほしい」って思うし、歳を取ったら「若者に聞いてほしい」って思う（笑）。僕が主宰する劇団「はえぎわ」で上演した『ライフスタイル体操第一』（2012年）は、アンサンブルキャストで、50歳から69歳の方に出てもらったんですね。彼らの半分ぐらいしか生きていない、僕のような若造

さいたまトリエンナーレ総合アドバイザー

加藤種男

脚本家

ノゾエ征爾

公演概要・募集要項

1万人のゴールド・シアター2016

【総合演出】蜷川幸雄

【公演日】2016年12月7日（水） 【会場】さいたまスーパーアリーナ

【対象】

- ◎65歳以上（2016年12月31日時点の年齢）
- ◎説明会（6～7月）及び稽古（9～11月、計10回程度）に参加できること。
- ◎12月6日の舞台稽古、12月7日の舞台稽古・公演本番に参加できること。

【参加費】10,000円（税込）※稽古料、傷害保険料を含みます。

【応募方法】

- ①インターネット（パソコン・スマートフォン）
「1万人のゴールド・シアター2016」公式ホームページからご応募ください。
【公式ホームページ】<http://www.saf.or.jp/10000/>

- ②郵送
応募用紙（募集チラシ裏面、または公式ホームページからダウンロード）に必要事項をご記入のうえ、「1万人のゴールド・シアター2016」係宛にご郵送ください。

※詳細は募集チラシ・公式ホームページをご覧ください（3月末発表予定）。

【応募先・お問合わせ】

（公財）埼玉県芸術文化振興財団「1万人のゴールド・シアター2016」係
〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1 TEL.048-858-5505（休館日を除く10:00～19:00）
【主催】埼玉県、（公財）埼玉県芸術文化振興財団 【協力】さいたまトリエンナーレ実行委員会

それと逆行して、個がはっきりしてきたというか、昔はボヤッとしていたものが見えてきたという感覚もあるんです。〈老い〉は悪いものではないというか、30歳と80歳では、存在の輪郭も違いますよね。蜷川さんが演出する「さいたまゴールド・シアター」のお芝居を観ると、面白くて感動するんですが、「自分たち若者は、小さいところでやってんな」ってショックというか、悔しさもありますし。

加藤 そう悔しがってもらえるぐらい、高齢者の生き甲斐になるような作品が実現すれば、若者にとっても未来が明るい。昔は歳を取ると尊敬もされたし、豊富な経験は頼りにされていた。そういった価値をこの舞台上で、お年寄り自身にも再発見してもらいたいんですよ。老人が元気に自信を持って生きられなくなる原因をつくったのは、かつての若者だった私たち自身なんです。それを今、自分たちの力で転換しないと、未来永劫変わらない。自らの社会づくりを反省して、大きく変革したい、「新しい

社会に向かって最後の力を振り絞ろう」という私自身の思いもあるんですよ。私はこの「1万人のゴールド・シアター」が継続的なプロジェクトになることを期待していて、全国津々浦々でやってほしいと夢見ています。蜷川さんのゴールド・シアターの舞台からは、「（歳を取るという）圧倒的に不利に見えるような状況にも光はある。人生の最後の瞬間まで未来を見据えることが、私たちにはできる」というメッセージが伝わってきます。皆さんにもぜひ「1万人のゴールド・シアター」に参加して、日本全国の老人に向かって〈もっと動こう！〉と呼びかけてほしい。大勢の人に喜びを分ける存在になってほしいんです。それでこうやって、ノゾエさんをはじめ、多くの人に動いてもらっているわけです。「人の迷惑をかえりみず」っていうのも老人の特権ですから（笑）。

ノゾエ 同じ船に乗って頑張りたいと思います！

加藤種男

Taneo Kato

公益社団法人企業メセナ協議会代表理事専務理事。1990年以降、アサヒビールの社会活動の推進役として、アサヒ・アート・フェスティバル（AAF）をはじめ、アサヒビール大山崎山荘美術館の立ち上げなど、同社の芸術文化活動を幅広くリード。また、企業メセナ協議会研究部会長として、「ニュー・コンパクト」を取りまとめるなど、積極的に文化政策を提言し、2012年より現職。2002年から2010年まで、芸術文化創造都市をめざす横浜市の文化政策推進の旗振り役として、横浜市芸術文化振興財団専務理事などを歴任。2008年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞（芸術振興部門）。



「1万人のゴールド・シアター」に参加して、
日本全国の老人に向かって
〈もっと動こう！〉と呼びかけてほしい。

〈老い〉は悪いものではないというか、
30歳と80歳では、
存在の輪郭も違いますよね。

ノゾエ征爾

Seiji Nozoe

脚本家、演出家、俳優。劇団「はえぎわ」主宰。1995年、青山学院大学在学中に演劇を始める。松尾スズキのゼミを経て、1999年に「はえぎわ」を始動。以降、全公演の作・演出を手がける。2011年、第21回公演『春々』（2010年）の脚本が第55回岸田國士戯曲賞最終候補にノミネートされる。2012年、第23回公演『〇〇アル風景』（2011年）の脚本が第56回岸田國士戯曲賞受賞。脚本家、演出家、俳優として外部公演にも多数参加。TVドラマ・映画などへの出演のほか、2010年より世田谷区内の高齢者施設での巡回公演（世田谷パブリックシアター@ホーム公演）も行っている。



松竹大歌舞伎

平成28年度公文協東コース

文 ● 川添史子

夏を彩る、 若手実力派による 歌舞伎公演



「松浦の太鼓」松浦鎮信(市川染五郎) ©松竹



市川高麗蔵 嵐橋三郎 中村孝太郎 中村歌昇 市川染五郎

発売日 一般 6.5(日) メンバーズ 5.29(日)

平成28年度公文協東コース 松竹大歌舞伎

7.28(木) 昼の部12:30/夜の部17:00

熊谷文化創造館さくらめいと 太陽のホール

【演目】『ご挨拶』、『晒三番叟』、『松浦の太鼓』、『栗餅』

【出演】市川染五郎、市川高麗蔵、中村歌昇、中村孝太郎、嵐橋三郎 ほか

チケット(税込) 一般 S席6,500円 A席4,000円 B席2,000円

U-25*(A席対象)1,000円/メンバーズ:S席6,000円 A席3,600円

*イヤホンガイド(有料)あり。

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。

入場時に身分証明書をご提示ください。

熊谷文化創造館さくらめいと

〒360-0846 埼玉県熊谷市拾六間111-1

【電車】JR高崎線籠原駅

タクシー:籠原駅南口より約5分

徒歩:籠原駅南口より約15分

*当日は籠原駅南口・さくらめいと間の臨時無料バスを運行いたします。

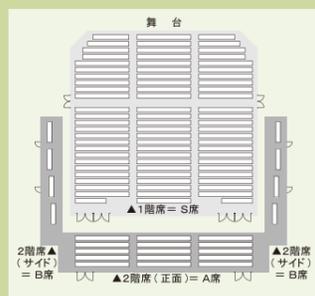
【お車】

国道17号「自衛隊入口」交差点より2km

国道140号バイパス「武体西」交差点より2km

無料駐車場400台

「太陽のホール」座席表



平成27年度 彩の国落語大賞は、 春風亭一之輔に決定！

彩の国さいたま芸術劇場では毎年、『彩の国さいたま寄席 四季彩亭』の出演者のうち若手落語家を対象に、観客の皆様からの投票をもとに年間で最も優れた演者を決定し、「彩の国落語大賞」を贈呈している。平成27年度の大賞受賞者は昨年10月『彩の国さいたま寄席 四季彩亭～若手落語家競演会～』に出演した春風亭一之輔に決まった。古典の良さをしっかり伝えながらも現代性ある落語で、評価も人気も高い気鋭の落語家だ。

笑いを重視した〈滑稽噺〉か、物語性に重点を置いた〈人情噺〉にするか、当日までネタは決めていなかったという一之輔だが、演じた演目は『子別れ』。仲違いをした夫婦が、もう一度やり直すまでを描いた人情噺だ。一之輔は「あの日のお客様は人情噺を集中して聞いてくださる雰囲気があったので、思い切って掛けられました」と会を振り返る。

『子別れ』は両親の仲を取り持とうとする“亀坊”がこまっしょくれている、かわいらしい。特に一之輔の演じる子どもはどの噺でも、子どもの描写が生き生きとしている。演技に、実生活で3人の子を持つ経験が生きているかを聞くと、「表情なんかは参考になります。でも、落語の中ほど、うちのはヒドくないですよ。あんなに親は振り回されてはいません(笑)」との答えが返ってきた。

「季節の替わり目、『そろそろあれを……』と、久々のネタを演じるのは楽しいです。今年と花見の噺でしょうか。一年間高座に上がった経験が稽古になったのか、同じ噺でも、以前とは間もやり方も変わるんです」と語る。受賞者の会は2017年1月とまだ先だが、「もう一回受賞できちゃうぐらいの気合いで臨みます！」とのことなので、さらにパワーアップした一之輔を楽しみに待とう。

春風亭一之輔

経歴

◎2001年5月

春風亭一朝に入門。
前座名「朝左久」

◎2004

二ツ目昇進、「一之輔」と改名

◎2012

21人抜き単独真打昇進

出陣子

◎さつまさ

発売日 10月予定

彩の国さいたま寄席 四季彩亭

～平成27年度彩の国落語大賞受賞者の会
春風亭一之輔

2017年1月 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

※詳細が決まり次第発表いたします。 ※4月、7月の落語公演情報はP.21をご覧ください。



Photo ©加藤英弘

カタックとフラメンコの挑戦 アクラム・カーン & イスラエル・ガルバン 『TOROBACA - トロバカ』

2014年最大の話題作がついに来日! フラメンコ界の異端児イスラエル・ガルバンが、インド古典舞踊“カタック”と現代ダンスを融合させた振付や、異分野のアーティストとのコラボレーションで知られる振付家アクラム・カーンとつくり上げた『TOROBACA - トロバカ』。新たな出会いを「未知の言語を学ぶようだった」と語るガルバンに、その異才同士の競演を聞く。

文●東 敬子 (フラメンコ・ジャーナリスト)

“フラメンコ界のニジンスキー” イスラエル・ガルバン Interview



Photo©Jean-Louis Fernandez

破壊と創造のフラメンコ

伝統という完成された美を、あえて粉々に叩き壊し、その欠片をかき集め、自分自身のヴィジョンで再び構築する——それが、フラメンコの異端児イスラエル・ガルバンのアートのあり方だ。彼の一举一動は、私たちの中のフラメンコをことごとく裏切る。しかし彼は自分を、たとえどんなに創造の翼を広げようとも、“コンテンポラリー・ダンサー”ではなく、“フラメンコ”と呼び続ける。なぜなら、それが彼の、切っても切り離せないルーツだから。

まるで緻密に計算された“盆栽”のごとく、時に自然をねじ伏せ作り出される強靱な意思を持つフォルムは、“既存の概念”からはまったく予期されなかった結果を生み出す。イスラエルの存在意義は、そのねじれたフォルムに籠る情熱に他ならない。そうして彼は、伝統と未来、男と女、西洋と東洋……相反する二つの境を取り外し、誰も想像だにし得なかった、まったく新しい世界観をフラメンコにもたらした。

そして今、彼は新しい出会いと共に、更なる前進を遂げようとしている。イスラエル・ガルバンの規格外のフラメンコと、アクラム・カーンのコンテンポラリーと融合

Photo©Javier Andrada



イスラエル・ガルバン
Israel Galván

複雑でスピーディーなフットワーク、フラメンコの新たな世界を切り拓く獨創性で知られるダンサー・振付家。1994年アンダルシア舞踊団に入団。1998年のカンパニー設立以来、革新的な作品を次々と発表。「フラメンコ界のニジンスキー」とも評される。国内で多数受賞のほか、2012年にベッシー賞 (NY) を受賞。2016年1月、第16回英国ナショナル・ダンス・アワードで特別賞を受賞。パリ市立劇場アソシエイト・アーティスト。

Photo©Laurent Ziegler



アクラム・カーン
Akram Khan

コンテンポラリー・ダンスとインドの古典舞踊「カタック」をユニークに融合させ、異文化を越境する表現活動を精力的に行う。今、世界が最も注目する振付家の一人。2000年自身のカンパニー設立。シディ・ラルビ・シェルカウイ、シルヴィ・ギエム、女優ジュリエット・ピジューらとのコラボレーションでも大きな注目を集めたほか、2012年夏のロンドン・オリンピック開会式でも振付・出演し、話題を呼んだ。英国サドラーズ・ウェルズ劇場アソシエイト・アーティスト。

した現代を生きるカタックとの出会いは、エキサイティングこの上ない時間を作りだした。

「アクラムとはここ数年、同じ舞踊フェスティバルで名前を連ねることが多くて興味を持っていたんだけど、バルセロナのフェスティバル「メルカット・デ・レス・フロルス」を主催するセスク・カサデスクが僕ら二人の間に入れてくれて、この作品、『トロバカ』(2014年)が実現したんだ」

国を追われ、11世紀頃に北インド地方から西へと流浪の旅に出たロマ民族。その文化を原点に持つフラメンコは、インドの伝統舞踊カタックと起源を分かち合っている。

影響し合って生まれた作品

イスラエルは言う。

「僕らの挑戦は、この二つの舞踊に共通点を探すことだった。そしてその鍵はリズムだった。だから僕らは、ただひたすら踊る。特別な物語はない。僕らが踊る中で、観客の一人ひとりが、自分自身の物語を見つけてくれれば良いと思っている」

では、共通点を探すことで、二つを融合し、新しい舞踊ジャンルを作り出そうという意図があったのだろうか。

「いや、そういうわけじゃない。本当に、ただ一緒に踊りたかっただけなんだ。僕らがここでやりたかった事は極めてシンプル。お互いがそれぞれ、自分の中に新しい発見をすること、それだけだ。

『トロバカ』と言うタイトルは、ダダイズムの詩人トリスラン・ツアラの詩『ト・バカ』をもじって付けたんだけど——闘牛はスペインの象徴だから、フラメンコをトロ(雄牛・闘牛)、カタックをバカ(雌牛)に例えてね——でも創っていく内に、それぞれが歩み寄り、影響しあって、最後はどちらがどちらと言う役割も無くなったよ。

カタックのリズムはとても数学的で、僕にとっては未知の言語を学ぶような感じだった。アクラムと踊って、僕の動きは少しだけ変わったと思う」

進化し続けるフラメンコ

フラメンコ舞踊家の両親の元に生まれたイスラエルは、幼いころから舞踊の才能を発揮し、どんなテクニックでも簡単にこなしたと言う。だからだろうか、彼の好奇心は、いつも次へ、新しいものへと、飢えている。

「日本の舞踏家・大野一雄のスタジオを訪ねたときは衝撃だった。幸運にも、彼の踊

チケット発売中

アクラム・カーン&イスラエル・ガルバン
『TOROBACA - トロバカ』

5.7(土)・8(日) 開演15:00

彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[演出・振付・出演] アクラム・カーン、イスラエル・ガルバン

チケット(税込) 一般 S席6,000円 A席4,000円

U-25* S席3,500円 A席2,000円

メンバーズ S席5,400円 A席3,600円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。
※A席(サイドバルコニー)は舞台の一部が見切れます。
※演出の都合により、開演時間に遅れますとお席へのご案内ができない場合がございます。予めご了承ください。



Photo©Jean-Louis Fernandez

りを直に観ることが出来て、ほんの一瞬だったけど、まるでフラメンコだと思ってびっくりした。僕はエンリケ・エル・コホの伝説の踊りを思い出した。舞踏家・竹之内淳志から一週間レッスンを受けたんだけど、身体は閉じているのに、開いていくような感じで、実際に胸が開くのが分かった。自由にゆっくりした動きにはフラメンコのそれがあった」

そうして、彼のフラメンコは休まず進化し続ける。

「僕の作品『フラ・コ・メン』(2014年)で振付家パトリア・カバジェロと共演したとき、彼女は自然な流れを作るために、違和感があったり、技術が高度で苦勞するような動きは、すべて排除した。目からウロコの体験だった。僕はこのとき、小さな動きでも、大きな意味を作り出すことが出来るのだと学んだ。そこから、僕のヴィジョンは変わった。まるで身体ごと取り替えたみたいだね」

作品『デッシュ』(2011年)で「自分に向き合う怖さを克服するため」ステージに一人舞ったアクラムだったが、常に一人で踊ってきたイスラエルは、『トロバカ』という二人の舞台で、今度は何を見いだしたのか。

彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
2016年度 音楽公演

聴きどころはココだ!

彩の国さいたま芸術劇場の音楽公演は、2016年度も聴き逃せないものばかり。好評のシリーズ公演や、世界的なアーティストによる演奏会など、2016年度公演ラインナップの聴きどころをご紹介します。

文●飯尾洋一(音楽ライター)

旬のスターが勢ぞろい
「ピアノ・エトワール・シリーズ」

彩の国さいたま芸術劇場の2016年度音楽公演のラインナップが発表された。例年、クラシック音楽界の今を伝えてくれるようなアップトゥデイトな企画が並ぶが、今年是一段と魅力的な公演がそろっている。

まずは彩の国さいたま芸術劇場の名物企画「ピアノ・エトワール・シリーズ」から。エトワール、つまりスター。このシリーズでは21世紀を担う旬のアーティストたちが、それぞれ個性豊かなプログラムを聴かせてくれる。

7月16日には「ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.6」として、アレクサンダー・ガヴリリュクが再登場する。1984年、ウクライナ出身。7歳でようやくピアノを始めるもたちまち才能を発揮して、16歳で浜松国際ピアノ・コンクールで優勝したという逸材である。その後、アルトゥール・ルービンシュタイン国際ピアノ

コンクール第1位を獲得し、以来世界の第一線で活躍を続けている。

プログラムにはガヴリリュクの圧倒的なヴィルトウオジティ(名技性)を堪能できるであろうバラキレフの難曲《イスラメイ》をはじめ、ラフマニノフの練習曲集《音の絵》やショパンの「英雄ポロネーズ」など、華やかな曲目が並ぶ。

9月11日の「ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.29」には、田村響が登場する。2007年、20歳でロン・ティボー国際コンクール第1位を獲得してセンセーションを呼んでから9年。ベートーヴェンの《悲愴》や「ヴァルトシュタイン」、ショパンの4曲のスケルツォといった本格派の直球プログラムで、近年の成熟ぶりを示す。

11月19日の「シリーズ Vol.30」では、ロシアの新星ニコライ・ホジャイノフがシューマンの《幻想曲》を中心としたプロ



アレクサンダー・ガヴリリュク
Photo◎Mika Bovan



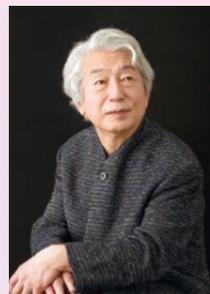
田村 響 Photo◎武藤章



ニコライ・ホジャイノフ
Photo◎Teruyuki Yoshimura



キット・アームストロング
Photo◎Jason Alden



館野 泉 Photo◎武藤章



藤原真理
Photo◎Atsuya Iwashita

グラムを組む。

2017年1月21日の「シリーズ Vol.31」に出演するキット・アームストロングは、ピアノに加えて作曲、さらには数学の学位も持つ才人。バロック音楽から自作まで趣向に富んだプログラムが用意される。

選曲の妙にも注目
「次代へ伝えたい名曲」

「次代へ伝えたい名曲」は、日本のトップ・アーティストたちが次世代のための作品を演奏するという、彩の国さいたま芸術劇場オリジナル企画のリサイタル・シリーズだ。

5月14日、シリーズ第7回では館野泉が登場する。12年前より左手のピアニストとして活動する館野泉は、これまでに左手のための作品を数多く演奏し、この分野を開拓してきた。吉松隆のNHK大河ドラマ『平清盛』より《遊びをせんとや》(海鳴り)、末吉保雄の《土の歌・風の声》、cobaの《記憶樹》などは館野泉のための作品であると同時に、次代へ受け継がれるべき作品である、といった奏者の思いが込められたプログラムだ。

12月10日の第8回では日本を代表するチェロ奏者、藤原真理がピアノの倉田テルと共演、2017年3月11日の第9回では国際的に活躍するヴァイオリニストの竹澤恭子がピアノの児玉桃とコンビを組む。どんな意欲的なプログラムが組まれるのか、大いに期待される。

「現在シリーズ」
ヴァイオリニスト佐藤俊介の最終回

「現在シリーズ」は、気鋭のアーティストが3年にわたって独自のプログラムを披露する。2017年2月11日は、「佐藤俊介の現在 Vol.3」。モダンとバロック、両方のヴァイオリンを自在に操る俊才が、3年目の公演を迎える。ロレンツォ・コッポラのクラリネット、小菅優のピアノとともにストラヴィンスキーの《兵士の物語》三重奏版に挑む。

大物アーティストが続々登場

そのほか、個別の公演にも注目度の高いアーティストたちが続々登場する。

10月10日のイザベル・ファウストのヴァイオリンとクリスティアン・ベザイデンホウトのチェンバロによるデュオなどは、まさしく現在の音楽シーンの最先端を行く顔合わせといえる。オール・バッハ・プログラムでは、歴史的考察に基づく解釈をもとに、作品にヴィヴィッドな生命力を吹き込んでくれることだろう。

10月22日はレ・ヴァン・フランセ。フルートのパユをはじめ、世界最高峰の管楽器の名手たちが集った人気のアンサンブルだ。毎回、来日公演では会場に若い聴衆の



竹澤恭子
Photo◎Tetsuro Takai



佐藤俊介
Photo◎Yat Ho Tsang



Photo◎Detlev Schneider



Photo◎Marco Borggreve

イザベル・ファウスト&
クリスティアン・ベザイデンホウト

熱気が渦巻く。

11月5日の「NHK交響楽団 12人のチェリストたち」はリラックスして楽しめる公演になりそう。チェロだけでアンサンブルが組めるのも、この楽器特有の表現力の幅広さがあるところ。

11月12日は鈴木雅明指揮バッハ・コレギウム・ジャパンがバッハの傑作《ミサ曲 口短調》をとりあげる。古今のミサ曲のなかでも、これほど偉大な作品がほかにあるだろうか。深く心に残る公演となるにちがいない。

2017年3月25日、シーズンの掉尾を飾るのは巨匠アンドラーシュ・シフ。年輪を重ねていっそうの深みと風格を増した名ピアニストの円熟の境地をじっくりと味わいたい。

若手から大家まで多彩なラインナップがそろった今シーズン。楽しみは尽きない。



NHK交響楽団
12人のチェリストたち
Photo◎加藤英弘



バッハ・コレギウム・ジャパン
指揮 鈴木雅明
Photo◎Marco Borggreve



アンドラーシュ・シフ
Photo◎Nadia F. Romanini

SCHEDULE

会場=彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
2016年

5月14日(土)14:00 (チケット販売中)
「次代へ伝えたい名曲」第7回
館野 泉 ピアノ・リサイタル

7月16日(土)15:00 (4公演セット券・1回券販売中)
ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.6
アレクサンダー・ガヴリリュク ピアノ・リサイタル

9月11日(日)15:00
(4公演セット券販売中) (1回券 4月発売)
ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.29
田村 響 ピアノ・リサイタル

10月10日(月・祝)15:00
イザベル・ファウスト(ヴァイオリン)&
クリスティアン・ベザイデンホウト(チェンバロ)
オール・バッハ・プログラム

10月22日(土)15:00
レ・ヴァン・フランセ

11月5日(土)14:00
NHK交響楽団 12人のチェリストたち

11月12日(土)15:00
バッハ・コレギウム・ジャパン
J. S. バッハ《ミサ曲 口短調》

11月19日(土)15:00 (4公演セット券販売中)
ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.30
ニコライ・ホジャイノフ ピアノ・リサイタル

12月10日(土)14:00
「次代へ伝えたい名曲」第8回
藤原真理 チェロ・リサイタル

2017年
1月21日(土)15:00 (4公演セット券販売中)
ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.31
キット・アームストロング ピアノ・リサイタル

2月11日(土)15:00
佐藤俊介の現在 Vol.3

3月11日(土)14:00
「次代へ伝えたい名曲」第9回
竹澤恭子 ヴァイオリン・リサイタル

3月25日(土)15:00
アンドラーシュ・シフ ピアノ・リサイタル

光の庭プロムナード・コンサート

会場=彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ(1階)
ポジティブ・オルガン(移動可能な小型のバイオルガン)と器楽・声楽とのアンサンブルでお届けするミニ・コンサートです。4~5月の公演情報はP.20イベントカレンダーをご覧ください。

各回 14:00~14:40 ※第89回のみ 17:00~17:40
入場無料

- 第83回 4月23日(土)
- 第84回 5月21日(土) ばらまつりスペシャル
- 第85回 6月25日(土)
- 第86回 7月30日(土) 夏休みスペシャル
- 第87回 9月17日(土)
- 第88回 10月29日(土)
- 第89回 12月17日(土) トワイライト・スペシャル
- 第90回 2017年1月28日(土)

※埼玉会館は大規模改修工事のため、2017年3月31日まで休館予定です。
※2016年3月現在。やむを得ぬ事情により、出演者等が変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

より深く、より雄弁に
左手が紡ぎ出す音楽

館野泉のピアノを聴くと、いつも心のどこかで手を合わせるような気持ちになる。それはなにかを拝む姿勢とは少し違って、もっと密かに居住まいをただす感じに近い。彼のピアノはいつも知らないうちに心をそうした姿勢へとひらいていく。

さりげなくそんなことができるのは、館野泉の音楽がいつも澄んだ芯をもって、晴朗な大空へ手を延ばし、支えるかのよう宇宙を祝福しているからに違いない。聴くひとの手は、そうして静かに互いを合わせて、音楽の響くさきをみつめる心に、そっと重なっていく。

その感覚は、不思議なことに、館野泉が左手の演奏を深めていくにつれて、ますます

す高まっていたり、純化していたりするように思える。10年少し前に彼がまずは左手でピアノ演奏の活動を再開したとき、聴き手が驚嘆したのは狂おしいまでの希求の力と、低音域の土壌から立ち上がる音楽の剛さだった。余白が広がったことをおいても、演奏のスケールや存在感は薄まるどころか濃くなっているようにすら感じられた。それは限られた音に籠められた表現の

雄弁さ、いや表現以前に籠められた思いの切実さによるもので、もともと館野泉の音楽が謳歌していたものには違いない。それが、いっそう切り詰められたかたちで、音と静寂、つまり生命と土壌の両面から、激しく訴えかけてくるように思えた。そこには事実として、これらの音楽が左手だけで奏でられているということはあるが、聴こえてくるのはなにより、演奏する人間の真摯さと精神の強さ、そして作品そのものの多様な生命のほうだ。

同時代の作曲家たちと拓く
ピアノ音楽の新しい地平

そうした頑健さを増した館野泉の演奏は、余白が広がっただけにいっそう冒険的な世界を探求していくことになった。ラヴェルが書いた左手のための協奏曲を、「意地でも弾くものか」と最初は思っていたそうだが、結果としては、彼自身が同時代の作曲家たちとともに新しい可能性を旅し、ピアノ音楽の地平を拓くことになった。左手のための作品は表現を狭めるばかりか、大きな広がりをもつものとして、目の前に広がっていたのである。それは、ピアニスト自身や次々にインスピレーションを楽譜に記す作曲家たちはもちろん、聴き手にも新鮮な感銘を運んできた。復帰から2年で「館野 泉 左手の文庫」という募金も立ち上げ、聴き手ひとりひとりの感動を次なる作品への希望に繋げるようにして、館野泉はひとつひとつの新曲に息を吹き込み、それ

を大切に接ぎ木するように、たくさんの真新しいレパトリーをつくり続けている。

不思議なことは、これらの作品がいつ演奏されても、生まれただの新しい響きを心に広げていくことで、それは作品に向き合う館野泉がいつもそのように敬愛をもって音楽をみつめているからだろう。いまは新しい作品たちを、いくらかの時代を経て次代の手が弾き継いでいくとしても、新たな世界に触れる驚きは色褪せないように思える。それは、作曲家が新作を通じて、左手のピアノ音楽という新しい画布を目の前に、自由に格闘していった想像力の軌跡であるからだ。ピアニストが新しいレパトリーとして、これらの作品に臨んだときに、拡大されていく表現の広がりもそこに重なってくるだろう。それこそ、館野泉がこの10年ほどの間、迷いなく信じて音に託してきたように。

作曲家が作品にこめた「希望」
未来へ広がるプログラム

さて、この春のリサイタルは「次代に伝えたい名曲」の第7弾だが、シリーズ名そのものが、館野泉に寄せられた新作がもつメッセージに重なる。それらは驚くほど多様な広がりを持つが、まずはそれを奏でる手、つまりは館野泉という人間への確かな友愛と信頼がある。

しかし、音楽会はまず、歴史的な名作から始まる。バッハの〈シャコンヌ〉を編曲したときブラームスがこだわったのはヴァイ

オリニストのように5本の指で弾くこと。スクリャーピンが初期の小品を書いたのは、練習で右手を故障したのが直接の要因だった。館野泉は2004年秋録音の復帰作にも入れたこれらの曲を、演奏活動50周年の記念アルバムにも再録音で吹き込み、頑強さを超えて、さらにしなやかな身振りと思つかいをもたらしている。

そして、光永浩一郎が師の追憶に書いた《サムライ》、吉松隆がNHK大河ドラマ『平清盛』のために書いた〈遊びをせんとや〉と〈海鳴り〉が続くが、これらは2014年に録音された新作にも収められたもの。藝大入学前からの友人、末吉保雄の《土の歌・風の声》は2006年に録音もされたし、アコーディオンの偉才cobaの《記憶樹》は「館野泉 左手の文庫」の委嘱新作で、もう一枚の50周年記念アルバムのタイトル曲となった。各地での演奏会やCD録音だけでなく、楽譜出版も含めて、いずれの新作も力強く未来へと開かれている。

幅広いプログラムを一言でまとめるなら、それぞれの作曲家が多種多様な可能性を模索しながら、そのすべてを希望のかたちで曲に託していった、ということだ。それこそが、館野泉のピアノを聴き、左手のための新旧の名曲に触れるとき、聴き手の心なかでそっと合わせられる両の手の意味である。それは、祈りのかたちをとり、つまりは希望のしるしとしてある。

次の世代へ受け継ぎたい名曲を、日本のトップ・アーティストの演奏で聴くシリーズ。

第7回は、今年80歳を迎える館野泉が登場する。

脳溢血で倒れたのち、「左手のピアニスト」として復活して10年あまり。

不屈の演奏姿はさまざまな報道で伝えられ、

「音楽」を奏でるのに両手も片手も関係ないことを、館野の演奏は教えてくれる。

音楽とは、そして人生とは——。

館野が次代へ伝える作品と演奏に、じっくり耳を傾けたい。



Photo◎満田聡

「次代へ伝えたい名曲」第7回

館野 泉

手が伝える思い——館野泉の新しい響き

文◎青澤隆明(音楽評論家)

チケット発売中

彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画

「次代へ伝えたい名曲」第7回

館野 泉 ピアノ・リサイタル

5.14(土)開演14:00 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】バッハ(ブラームス編曲): シャコンヌ

スクリャーピン: 左手のための2つの小品 作品9

光永浩一郎: サムライ(館野 泉に捧ぐ)

吉松 隆: NHK大河ドラマ『平 清盛』より

〈遊びをせんとや〉〈海鳴り〉

末吉保雄: 土の歌・風の声(館野 泉に捧ぐ)

coba: 記憶樹(館野 泉に捧ぐ) — 「館野 泉 左手の文庫」助成作品

チケット(税込) 一般 正面席4,000円 バルコニー席3,000円

U-25*(バルコニー席対象)1,500円 メンバーズ 3,600円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。



Photo◎武藤章

館野 泉 ピアノ

Izumi Tateno

1936年東京生まれ。60年東京藝術大学首席卒業。64年よりヘルシンキ在住。日本とフィンランドを拠点に国際的活動を展開し、演奏会は3,500回を超える。2002年脳出血により右半身不随となるも04年「左手のピアニスト」として復帰。NHK大河ドラマ『平清盛』のテーマ曲ソリスト。左手ピアノ音楽の集大成「館野泉フェスティバル〜左手の音楽祭2012-2013」を開催。シベリウス・メダル、旭日小綬章受章等。著書『命の響』(集英社刊)ほか。最新CD『サムライ』(エイペックス・クラシックス)。南相馬市民文化会館(福島県)名誉館長、日本シベリウス協会最高顧問、日本セヴラック協会顧問、サン＝フェリクス＝ロウラゲ(ラングドック)名誉市民。館野泉公式HP <http://www.izumi-tateno.com>

Review

レビュー

MUSIC

バッハ・コレギウム・ジャパン ヘンデル《メサイア》

12.20(日) 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール



クリスマスにちなみ、衣裳に赤いモチーフを取り入れて登場したバッハ・コレギウム・ジャパン。この季節ならではの華やいだ空気のなか、鈴木雅明の指揮のもと神々しい《メサイア》を聴かせてくれた。合唱は、バッハとは一味違う、角のない丸みを帯びた響きが極上で、時にしっとり時に激しく奏でる管弦楽と共に、聖書の物語をありありと音で描き出した。特にトランペットの名手マドゥフが圧倒的で、大きな拍手が送られた。ソリストは、パンタキの愛に満ちた澄んだ声、ローリーの悲嘆に暮れるソロの美しさ、コーンウェルの高貴な歌、ベヴァンの崇高な響きが深い印象を残した。

DANCE

インバル・ピント&アヴシャロム・ボラック ダンス・カンパニー 『DUST-ダスト』

1.28(木)~31(日) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール



彩の国さいたま芸術劇場への登場は共同プロジェクト『Hydra ヒュドラ』(2007年)以来という、インバル・ピント&アヴシャロム・ボラック ダンス・カンパニー、9年ぶりの埼玉公演。今作では2013年初演時のクリエイションから参加したという、森山未來も出演した。外界から隔離された部屋で、子どもと大人が繰り広げるモノトーンの世界は、詩的でユーモラスで、どこか哀しい。アニメーションとダンサーの動きの融合も楽しく、机や紙や木の棒などの小道具を、さりげなくダンスに取り込み、豊かなイメージを紡ぐ巧さも際立つ。繊細で緻密、温もりある世界を堪能した。

MUSIC

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.28 チョ・ソンジン ピアノ・リサイタル

1.22(金) 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール



昨年秋のショパン国際ピアノ・コンクール優勝後、早々に全席完売、会場は期待の熱気が渦巻いた。ペダルを多用した淡い響きで感情を露わさせたモーツァルトのあと、彼が今一番弾きたい作曲家の一人シューベルトのソナタ第19番。作品とじっくり対話しながらリズムで音楽を紡ぐ、ロマンティックで躍動的な演奏だった。音色をガラリと変えて、後半はショパン《前奏曲》全曲。コンクールでも名演だったが、それ以上に深いドラマを聴かせ、コンクール後も成長を続ける若き才能に感嘆した。アンコールのショパン《幻想曲》も圧巻。終演後はスタンディング・オベーションとなった。

MUSIC

佐藤俊介の現在 Vol.2 ドイツ・ロマン派への新たな眼差し レクチャー付き公開リハーサル

2.11(木・祝) 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール



本公演に先立って行われた「レクチャー付き公開リハーサル」。参加者はステージ上の左右に座り、奏者同士が交わす会話と演奏を目の前で聴きながらリハーサルを見学する嬉しい機会となった。ピアノは、ペーター・ローゼンベルガーが1830年に製作したフォルテピアノが使用されたが、フォルテピアノと現代のピアノの違いや、ピアノ五重奏曲を演奏する際、現代楽器とでは音作りが違うことなど興味深い話の連続で、参加者は目と耳が釘付け。その後、各曲のハイライトを解説付きで聴き、参加者からの数々の質問にも奏者が詳しく答えてくれ、会は終了。中身の濃い1時間だった。

PLAY

さいたまネクスト・シアター×さいたまゴールド・シアター 『リチャード二世』 2.18(木)~28(日) 彩の国さいたま芸術劇場 インサイド・シアター(大ホール内)



紋付袴と黒留袖姿の車いすに乗った老人たち、タンゴのリズムでステップを踏む、老人と若者——。昨年、若手育成を目的に結成された〈さいたまネクスト・シアター〉の本公演として上演されたシェイクスピア作品の再演。高齢者劇団〈さいたまゴールド・シアター〉も加わり総勢60名を超える出演者、場面ごとに展開される鮮烈なイメージなど、大きな話題を呼んだ作品がさらに磨かれ、たくましくなって復活した。狂乱的、あるいは同性愛的なエロティックな香りも漂い、歴史の一部を演じるかのような哀しき王たちの舞台は、この春、ルーマニアへの上陸が決まっている。

MUSIC

佐藤俊介の現在 Vol.2 ドイツ・ロマン派への新たな眼差し 2.13(土) 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール



佐藤俊介の企画が冴えた公演で、前半にメンデルスゾーン姉弟の作品、後半にシューマン夫妻の作品を演奏。姉ファニーのピアノ三重奏曲は第2・3楽章を取り上げ、フォルテピアノの妙なる響きと、それに触発されるガット弦の調べにより、実演機会の少ない佳曲の魅力を伝えた。敬愛する姉の死の衝撃を感じさせる弟フェーリクスの弦楽四重奏曲は、緊張感あふれる名演。後半はクララの二重奏曲に続き、夫ローベルトのピアノ五重奏曲では、現代の楽器とは違う絶妙な響きのアンサンブルで、名作の新たな表情を見せた。充実した楽興の時に、拍手はいつまでも鳴りやまなかった。

PLAY

マームとジプシー 『夜、さよなら』『夜が明けないうち、朝』『Kと真夜中のほとりて』 2.18(木)~28(日) 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール



蛭川幸雄の体調不良で延期となった『蟻の綿-Nina's Cotton-』の代替公演として、作・演出家の藤田貴大が20歳の時に書いた2006年初演『夜、さよなら』、2009年初演『夜が明けないうち、朝』、2011年初演『Kと真夜中のほとりて』を再構成し連作短編として上演。どれも〈不在の人〉を思う人々の思いが〈ある夜〉に交錯する物語だ。闇を走る電車の光、静かな湖、さびれたシャッター商店街、思いを抱えて彷徨う男、部屋で眠れぬ時を過ごす女の子。〈ここに居ない人〉の空白が、見知らぬ町の夜の匂いに混じる。蛭川が劇場に戻る日を待つ、エールのような公演でもあった。

MUSIC

ピアノ・エトワール・シリーズ・アンコール! Vol.5 福間洸太郎 ピアノ・リサイタル 2.20(土) 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール



武満徹の20年目の命日に行われた演奏会。「武満へのオマージュ」としたプログラムで福間は、選曲のほか曲順、曲間、照明、衣裳にもこだわり、武満から広がる世界を描き出した。世界初演の武智由香《冬日/蜉蝣——ピアノのための俳句による音像》はドビュッシーや武満を思わせる繊細な響きが美しい、この日にぴったりな作品。クセナキスやプロコフィエフといった重量級の作品を凄まじい打鍵ながらピアノスティックに聴かせたのち、蠟燭風の灯りのもと、バッハと武満で深い祈りに包まれた。アンコールも武満に所縁ある作品が演奏され、充実の演奏会は締めくくられた。

PLAY DANCE MUSIC CINEMA

大ホール 小ホール 音楽ホール 映像ホール 情報プラザ = 彩の国さいたま芸術劇場
 3歳以上のお子様から楽しんでいただける公演です。
 光の庭プロムナード・コンサートには年齢制限はありません。

PLAY

4.15(金)
**彩の国さいたま寄席 四季彩亭
 ～精鋭若手落語会**
 小ホール 開演14:00 詳細はP.21

5.25(水)
 ～6.11(土)
**彩の国シェイクスピア・シリーズ第32弾
 『尺には尺を』**

大ホール	
5.25(水) 18:30	3(金) 13:30
26(木) 13:30	4(土) 13:30/18:30
27(金) 18:30	5(日) 13:30
28(土) 13:30/18:30	6(月) 休演
29(日) 13:30	7(火) 13:30
30(月) 休演	8(水) 13:30/18:30
31(火) 13:30	9(木) 13:30
6.1(水) 13:30/18:30	10(金) 18:30
2(木) 13:30	11(土) 13:30

詳細はP.4-5

DANCE

5.7(土)
 8(日)
**アクラム・カーン&イスラエル・ガルバン
 『TOROBKA—トロバカ』**
 大ホール 開演15:00 詳細はP.10-11

MUSIC

4.23(土)
**光の庭プロムナード・コンサート第83回
 ～春風を聴きに～ リコーダーとオルガンの対話**
 情報プラザ 開演14:00 *入場無料
 [出演] 徳田佑子(オルガン) & 森吉京子(リコーダー)
 [曲目] G. バッサーノ(原曲クレメンス・ノン・パバ):元気はつらつ
 《春が来た》による即興演奏
 J. S. バッハ:《フルート・ソナタ 変ホ長調》BWV 1031より(シチリアーノ)
 J. S. バッハ:《トリオ・ソナタ第5番 ハ長調》BWV 529より ほか

5.14(土)
**彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画
 「次代へ伝えたい名曲」第7回
 舘野 泉 ピアノ・リサイタル**
 音楽ホール 開演14:00 詳細はP.16-17

5.21(土)
**光の庭プロムナード・コンサート第84回
 ばらまつりスペシャル**
 情報プラザ 開演14:00 *入場無料
 [出演] 野美山由加里(オルガン) & 渡辺隆太(トランペット)
 [曲目] ブラームス:《11のコラール前奏曲》作品122 より
 《一輪のバラが咲いて》 ほか

CINEMA

彩の国シネマスタジオ
【全席自由・各回入替制・整理券制】
 大人1,000円/学生500円 [入場時に学生証をご提示ください]
 ※料金は当日現金支払いのみ
 ※3月の「春休みスペシャル」は高校生以上1,000円/中学生以下(3歳以上)500円です。
 [中学生以上の方は入場時に学生証をご提示ください]

3.23(水)～26(土) 映像ホール
 春休みスペシャル
『ひつじのショー バック・トゥ・ザ・ホーム』
 (2014年/イギリス/85分)
 [監督] マーク・バートン、リチャード・スターザック
 同時上映 短編アニメ『一輪の花(ひなぎく)』
 (1965年/ブルガリア/6分/カラー/フィルム上映)
 [演出・脚本] ドル・ディノフ
 23(水) 10:30/14:00
 24(木) 10:30/14:00/17:00
 25(金) 10:30/14:00/17:00
 26(土) 10:30/14:00/17:00



4.7(木)～10(日) 映像ホール
『アドバンスト・スタイル そのファッションが、人生』
 (2014年/アメリカ/72分)
 [監督・撮影] リナ・ブライオブライト
 [製作] アリ・セス・コーエン
 [出演] ジョイス・カルバティ、リン・デル・コーエン、
 イロナ・ロイス・スミスキン ほか
 7(木) 10:30/14:00/17:30
 8(金) 10:30/14:00/17:30
 9(土) 10:30/14:00/17:30
 10(日) 10:30/14:00



5.12(木)～15(日) 映像ホール
『犬に名前をつける日』
 (2015年/日本/107分)
 [監督・脚本・プロデューサー] 山田あかね
 [出演] 小林聡美、上川隆也 ほか
 12(木) 11:00※音声ガイドあり/14:30/18:30
 13(金) 10:30/14:00/18:00
 14(土) 10:30/14:00※アフタートークあり/18:00
 15(日) 10:30/14:00



5.26(木)～29(日) 映像ホール
『パレードへようこそ』
 (2014年/イギリス/121分)
 [監督] マシュー・ウォーチャス
 [出演] ビル・ナイ、イメルダ・スタウトン、ベン・シュネツァー、
 ドミニク・ウェスト、パティ・コンスタイン ほか
 ※上映時間の詳細はホームページ等でお知らせいたします。



6.9(木)～12(日) 映像ホール
『エール!』
 (2014年/フランス/105分)
 [監督] エリック・ラルティゴ
 [出演] ルアンヌ・エメラ、カリン・ヴィアール ほか
 ※上映時間の詳細はホームページ等でお知らせいたします。



…彩の国さいたま芸術劇場 休館日

2016 3							4							5						
S	M	T	W	T	F	S	S	M	T	W	T	F	S	S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4				1	2	3	4	1	2	3	4	5	6	7
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14
13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28
27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30	29	30	31				

【埼玉会館 改修工事のお知らせ】
 2017年3月31日(金)まで、埼玉会館は改修工事のため休館いたします。

PLAY DANCE MUSIC

大ホール 小ホール 音楽ホール 映像ホール 情報プラザ = 彩の国さいたま芸術劇場
 *U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書を提示してください。

PLAY

発売中
**彩の国さいたま寄席 四季彩亭
 ～精鋭若手落語会**
 4.15(金) 14:00 小ホール
 [出演] 柳家三三(ゲスト)、
 三遊亭遊馬、三遊亭彩大、立川志の八
 チケット(税込) 全席指定 一般3,000円
 ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者)2,000円
 メンバース 2,700円

一般発売 3.19(土) メンバース 発売中

彩の国シェイクスピア・シリーズ第32弾
『尺には尺を』 詳細はP.4-5

発売日 一般 4.15(金) メンバース 4.9(土)

彩の国さいたま寄席 四季彩亭
～柳家権太楼と特選若手落語会
 7.30(土) 14:00 小ホール
 [出演] 柳家権太楼(ゲスト) ほか
 チケット(税込) 全席指定 一般3,000円
 ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者)2,000円
 メンバース 2,700円

発売日 一般 6.5(日) メンバース 5.29(日)

松竹大歌舞伎 詳細はP.8

DANCE

発売中
**アクラム・カーン&イスラエル・ガルバン
 『TOROBKA—トロバカ』**
 詳細はP.10-11

発売中
**コンドルズ 埼玉公演2016新作
 『LOVE ME TENDER』**
 詳細はP.12-13

MUSIC

発売中
**彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画
 「次代へ伝えたい名曲」第7回
 舘野 泉 ピアノ・リサイタル**
 詳細はP.16-17

発売中 【4公演セット券】【アンコール! Vol.6 1回券】
【Vol.29 1回券】発売日 一般 4.30(土) メンバース 4.23(土)

ピアノ・エトワール・シリーズ
 アンコール! Vol.6
アレクサンダー・ガヴリリュク
 Vol.29 田村 響
 Vol.30 ニコライ・ホジャイノフ
 Vol.31 キット・アームストロング

【会場】 音楽ホール
 【日時・曲目】
 【アンコール! Vol.6】 7.16(土) 15:00
 ショパン: ポロネーズ第6番 変イ長調 作品53 「英雄」
 ラフマニノフ: 練習曲集《音の絵》作品39より ほか

【Vol.29】 9.11(日) 15:00
 ベートーヴェン: ソナタ第8番 変イ長調 作品13 「悲愴」
 ショパン: スケルツォ全4曲 ほか

【Vol.30】 11.19(土) 15:00
 ショパン: アンダンテ・スピアネートと華麗な大ポロネーズ
 シューマン: 幻想曲 変イ長調 作品17 ほか

【Vol.31】 2017年 1.21(土) 15:00
 アームストロング: 細密画
 J. S. バッハ: パルティータ第6番 小短調 ほか

チケット(税込)
 【4公演セット券】
 一般・メンバース 正面席 13,500円 バルコニー席 11,000円
 U-25*(バルコニー席対象) 4,500円

【アンコール! Vol.6 1回券】
 一般 正面席 5,000円 バルコニー席 3,500円
 U-25*(バルコニー席対象) 1,500円
 メンバース 正面席 4,500円

【Vols.29～31】 各回
 一般 正面席 3,500円 バルコニー席 2,500円
 U-25*(バルコニー席対象) 1,000円
 メンバース 正面席 3,200円



アレクサンダー・ガヴリリュク Photo©Mika Bovan
 ニコライ・ホジャイノフ Photo©Tenyuki Yoshimura



田村 響 Photo©武藤章
 キット・アームストロング Photo©Jason Alden

次頁へ続く

パイプオルガンをもっと好きになる!

●「光の庭プロムナード・コンサート」×「ばらまつり2016」

「光の庭プロムナード・コンサート」は、彩の国さいたま芸術劇場の自然光の降り注ぐ情報プラザで、ポジティブ・オルガン（小型のパイプオルガン）の音色を楽しむ40分間のコンサート。5月は、劇場に程近い与野公園で開催される「ばらまつり」との同時開催です。今年も中央区バラサポーターのご協力を得て、光の庭に飾られるたくさんのばらをバックにオルガンとトランペットのアンサンブルをお届けします。約170種、約3,000株もの美しいバラが咲き誇る「ばらまつり」とともにどうぞお楽しみください。

光の庭プロムナード・コンサート ばらまつりスペシャル

【日時】5月21日(土) 開演 14:00 ※入場無料・年齢制限なし
 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ
 【出演】野美山由加里(オルガン) & 渡辺隆太(トランペット)
 【曲目】ブラームス：《11のコーラル前奏曲》より《一輪のバラが咲いて》ほか
 【お問合せ先】彩の国さいたま芸術劇場 事業部 音楽担当 TEL.048-858-5506

「ばらまつり2016」

【日時】5月21日(土)～22日(日) 9:00～17:00
 【会場】与野公園(中央区本町西1丁目地内)
 【お問合せ先】ばらまつり実行委員会 TEL.048-647-8339

●「みんなのオルガン講座」受講生募集!

彩の国さいたま芸術劇場では、小型のパイプオルガン“ポジティブ・オルガン”に親しんでいただける講座を2006年より開催しています。2016年度はパイプオルガンやその音楽について学ぶ①オルガン・レクチャー（演奏付・全2回）と、オルガンの演奏基礎を学ぶ②基本コース、パイプオルガンのしくみを知り、簡単な試奏体験ができる③初めてのオルガン体験講座（仮称）を開催。講師は、オルガン・チェンバロ・クラヴィコードのソリスト・通奏低音奏者として第一線で活躍中の大塚直哉氏と、ドイツで研鑽を積んで各地のコンクール入賞や音楽祭出演を果たし、一昨年帰国したばかりの大木麻理氏。現在①と②の受講生を募集しています。「オルガンのことを知りたい」「オルガンを弾いてみたい」という方は奮ってご参加ください!

- ① **オルガン・レクチャー**（演奏付・全2回） 講師：大塚直哉
 【日時】第1回6月26日(日) 10:30～12:00 / 第2回8月28日(日) 13:30～15:00
 【受講料】各回1,000円
 【申込】必要事項記載の上、往復はがき又はメール (music@saf.or.jp) で先着80名
- ② **基本コース** 講師：大塚直哉 / 大木麻理 ※オーディションあり
 【日時】◆オーディション 6月26日(日) 15:30～
 ◆レッスン 7月31日(日) ほか3回
 ◆発表会 2017年2月26日(日) 於：情報プラザ
 【オーディション参加費】500円
 【受講決定者・受講料】8,500円 ※テキスト代別
 【申込締切】5月26日(木) 必着

【お問合わせ】彩の国さいたま芸術劇場 音楽担当 TEL.048-858-5506
 ※詳細は財団ホームページをご覧ください。専用参加申込書の書式をダウンロードできます。

発売日 一般 6.4(土) メンバース 5.28(土)

イザベル・ファウスト&クリスティアン・ベザイデンホウト オール・バッハ・プログラム

10.10(月・祝)15:00 音楽ホール
 [曲目] J. S. バッハ：
 ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ第3番 ホ長調 BWV 1016
 無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第2番 イ短調 BWV 1003
 ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ第1番 口短調 BWV 1014
 トッカータ 二短調 BWV 913
 ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ第6番 ト長調 BWV 1019
 チケット(税込)
 一般 正面席 7,000円 バルコニー席 6,000円
 U-25*(バルコニー席対象)3,000円 / メンバース 6,300円



イザベル・ファウスト Photo©Detlev Schneider
 クリスティアン・ベザイデンホウト Photo©Marco Borggreve

発売日 一般 6.4(土) メンバース 5.28(土)

レ・ヴァン・フランセ

10.22(土)15:00 音楽ホール
 [出演]エマニュエル・バユ(フルート)
 フランソワ・ルルー(オーボエ)
 ポール・メイエ(クラリネット)
 ラドヴァン・ヴラトコヴィチ(ホルン)
 ジルベール・オダン(バソーン)
 エリック・ル・サージュ(ピアノ)
 [曲目] プーランク：六重奏曲 ほか
 チケット(税込)
 一般 正面席 6,000円 バルコニー席 4,500円
 U-25*(バルコニー席対象)2,000円 / メンバース 5,500円



Photo©wildundleise de Georg Thum

発売日 一般 6.4(土) メンバース 5.28(土)

バッハ・コレギウム・ジャパン J. S. バッハ《ミサ曲 口短調》

11.12(土)15:00 音楽ホール
 [出演]鈴木雅明(指揮)
 朴 瑛実、ジョアン・ラン(ソプラノ)
 ダミアン・ギヨン(アルト)
 櫻田 亮(テノール)
 ドミニク・ヴェルナー(バス)
 チケット(税込)
 一般 正面席 8,000円 バルコニー席 7,000円
 U-25*(バルコニー席対象)3,000円 / メンバース 7,200円



Photo©Marco Borggreve



インバル・ピント & アヴシャロム・ポラック ダンス・カンパニー「DUSTーダスト」関連企画 インバル・ピント ワークショップ レポート

1月末、彩の国さいたま芸術劇場にて、公演のためにイスラエルから来日していた振付家インバル・ピントによるワークショップが開催されました。参加者は、地元・埼玉の高等学校ダンス部に所属する高校生たち。「音楽に合わせて、想像力を使って身体を動かしてください」というインバルの言葉を受け、ゲームのように楽しそうに、さまざまな動きに挑みました。当劇場で上演されたインバル・ピント&アヴシャロム・ポラック ダンス・カンパニー『DUSTーダスト』の一場面の振付を習う場面もあり、全員が汗だくになりながら、あっという間の充実した2時間を過ごしました。

サポーター会員

(公財) 埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、蛭川幸雄芸術監督のもと、作品づくりに努めています。こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのがサポーター会員の皆様方です。(2016.2.25現在 / 一部未掲載)

- (株)与野フードセンター / (株)亀屋 / (株)松本商会 / (有)香山壽夫建築研究所 / 埼玉新聞社 / 埼玉りそな銀行 / (株)パシフィックアートセンター
 (株)アサヒコミュニケーションズ / FM NACK5 / 東京ガス(株) / カヤバ システム マシナリー(株) / (株)タムロン / (株)十万石ふくさや / 森平舞台機構(株)
 東芝エルティエーエンジニアリング(株) / 埼玉トヨタ自動車(株) / (有)齋賀設計工務 / 武蔵野銀行 / 浦和ロイヤルパインズホテル / アルピーノ村 / 国際照明(株)
 埼玉スバル / 桶本興業(株) / (株)佐伯紙工所 / (株)太陽商工 / (株)しまむら / 不動開発(株) / ビストロ やま / 埼玉県信用金庫 / (株)栗原運輸 / 彩の国SPグループ
 (有)プラネッツ / 関東自動車(株) / (株)デサン / セントラル自動車技研(株) / 丸美屋食品工業(株) / ポラスグループ / ひがし歯科 / 埼玉トヨペット(株)
 公認会計士 宮原敏夫事務所 / (株)価値総合研究所 / (株)埼玉交通 / (医)顕正会 蓮田病院 / (株)ウイズネット / サイデン化学(株) / アイル・コーポレーション(株)
 五光印刷(株) / 旭ビル管理(株) / ヤマハサウンドシステム(株) / (株)エヌテックサービス / (株)クリーン工房 / (株)つばめタクシー / (株)サンワックス / (株)総合舞台
 (株)タクトコーポレーション / (一財)さいたま住宅検査センター / 国大グループホールディングス / (株)NEWSエンターテインメント / オーガスアリーナ(株) / イープラス
 六三四堂印刷(株) / (医)榎会 林整形外科 / 埼玉県整形外科医会 / (医)山粋会 山崎整形外科 / サンケイリビング新聞社 / (株)三和広告社 / (株)セノン
 ショッパー / (株)松尾楽器商会 / JA埼玉県中央会 / 日本大学芸術学部 / (株)川口自動車交通 / (株)ホンダカーズ埼玉 / ファミリーマートあすまや / (有)杉田電機
 丸茂電機(株) / 太平ビルサービス(株)さいたま支店 / (株)片岡食品 / (株)協栄 / (株)ヨコハマタイヤジャパン / NTT東日本 埼玉事業部 / チャコット(株) / (株)平和自動車
 光陽オリエントジャパン(株) / 埼玉建設(株) / さくら Music Office / クワバラ・パンぷキン / 駒橋内科医院 / 東和アークス(株) / テレビ埼玉 / 日本ピストンリング(株)
 金井大道具(株) / 国立大学法人 埼玉大学 / (株)七越製菓 / ビーンズ与野本町 / (一社)埼玉県経営者協会 / (株)コマム / (株)原一探偵事務所 / (株)ファーストハウジング
 飯能信用金庫 / 川口信用金庫 / 青木信用金庫 / 美術商(株)つくば / (株)和幸楽器 / 淑徳与野中学・高等学校 / 新日本ハウス(株) / 埼玉栄中学・高等学校 / 大栄不動産(株)
 (株)アップオンリー AD / 埼玉東和薬品(株) / 相川宗一 / (株)ハイディ日高 / 浦和実業学園中学・高等学校

お問合わせ (公財) 埼玉県芸術文化振興財団 サポーター会員担当 TEL.048-858-5507

チケット購入方法について

インターネット

SAF オンラインチケット
 で、発売初日10:00から
 公演前日23:59まで
 オンラインチケット
 受付いたします。

【PC・携帯共通】
<http://www.ticket.ne.jp/saf/>

メンバーズ 登録のご住所へ無料配送

一般 【クレジットカード決済】
 または【コンビニ支払い】 ▶ コンビニ発券
 ※チケット代他に、店頭発券手数料
 (チケット1枚につき120円)が必要です。

電話予約

チケットセンター 0570-064-939

10:00～19:00 (彩の国さいたま芸術劇場休館日を除く)
 ※一部の携帯電話、PHS、IP電話からは受付できません。

メンバーズ 登録のご住所へ無料配送

一般 【クレジットカード決済】
 または【コンビニ支払い】 ▶ コンビニ発券
 ※チケット代他に、店頭発券手数料
 (チケット1枚につき120円)が必要です。

窓口販売

彩の国さいたま芸術劇場窓口(10:00～19:00)で直接購入
 いただけます。電話予約したチケットの引取もできます。
 ※休館日をお確かめの上、ご来場ください。

メンバーズ 【口座引落】

一般 【現金】または
 【クレジットカード決済】

その場で
 チケットを
 お渡しします。
 ※手数料は
 かかりません。

彩の国さいたま芸術劇場



〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰 3-15-1
 TEL.048-858-5500(代) ファックス 048-858-5515

- 電車でのアクセス
 JR埼京線と野本町駅(西口)下車 徒歩7分
- バスでのアクセス
 JR京浜東北線北浦和駅から西武バス大久保行き
 「彩の国さいたま芸術劇場入口」下車 徒歩2分

※駐車台数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。
 ※埼玉会館は施設・設備の大規模改修工事のため、2017年3月31日まで(予定)休館となります。

満足！

文●岩松了



画●磯良一

ちょっと湿っぽい話かなと思うので気が引けるのだが、岩井秀人さんの『夫婦』という芝居を観ていて、つい自分のことを顧みてしまったので……。芝居は岩井さんの父親の死をめぐる話だった。私が顧みてしまったというのは、私の父親のことだ。「満足！」という言葉のをこして死んだ私の父。

岩井さんと同じように私も父親のことを、とくに思春期には、好きではなかった。大学に入るために上京してからは、離れて暮らしていたから、好きとか嫌いとかいう感情からも解放された。思えば私が父親の死を電話で聞いたのも妙な状況だった。

私は屋久島にいた。東京に帰る日、台風が来ていた。一日中空港で待ったが、飛行機も船も運休になった。次の日、朝一番に帰りのチケットをとるために私は空港近くのホテルに泊まり、空港が開く時間に合わせてモーニングコールをかけて寝た。

早朝のその時間、電話が鳴った。受話器を取って、そのまま受話器を置いた。また鳴った。同じく取って、置いた。だって、機械音が知らせてくれるはずだから。三度目。ずいぶんしつこいモーニングコールだなと、今度は受話器を耳にあてた。妻からだった。妻は私の父が死んだことを告げた。まだ携帯はない時代だ。

私は東京へは帰らず、実家のある長崎に向かった。明治生まれだった父は、息子の私から見ても、母親に対して良い夫だとは思えず、母親の苦勞だけが子どもには強い印象になっていた。それが、死を前にして病室で母親に一言「満足！」と言ったというのだ。私は衝撃を受けた。自分の人生を振り返ってだろう、満足！と言えるなんて！ その父親を誇らしくさえ思った。母親は彼が死んだときポケットに200円しか入ってなかった逸話とともに地味に生きた夫の人生を語った。

観劇後、岩井さんと話した。むろん私のことは何も話さない。岩井さんの実話だというその芝居について「どこでどうやって実話が虚構性をおびるんだろうね」ということをだ。実話なのに虚構。そこに作家が介入する意味もあるはずだ。事実には何かを付与し、事実から何かを着服しつつつけている、こしらえる虚構の力は、その付与と着服に関係しているにちがいない。

いわまつ・りょう

劇作家、演出家、俳優、映画監督と幅広く活躍。

さいたまゴールド・シアター『船上のピクニック』『ルート99』の劇作を手掛けた。

3月から、M&O playsプロデュース『家庭内失踪』（作・演出）を上演。